

平成 22 年 11 月 5 日

各 位

会社名 株式会社 フレンドリー
代表者名 代表取締役社長 重里育孝
(コード 8209 大証第 2 部)
問合せ先 取締役管理本部長 中井豊人
(TEL 072-874-2747)

第 2 四半期累計期間業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 22 年 5 月 15 日の決算発表時に公表した平成 23 年 3 月期（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 平成 23 年 3 月期第 2 四半期の業績予想との差異

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,400	△80	△80	△380	△25.99
今回修正予想(B)	5,769	△590	△587	△1,661	△113.65
増減額(B-A)	△630	△510	△507	△1,281	—
増減率(%)	△9.8	—	—	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	6,535	△91	△87	△323	△22.14

2. 平成 23 年 3 月期通期の業績予想の修正

平成 23 年 3 月期通期業績予想数値の修正(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,000	50	50	△270	△18.46
今回修正予想(B)	11,300	△650	△660	△1,770	△121.04
増減額(B-A)	△1,700	△700	△710	△1,500	—
増減率(%)	△13.1	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月期)	12,241	△544	△509	△1,903	△130.15

3. 第2四半期累計期間の業績予想との差異の理由

第2四半期累計期間は、新規・既存業態を問わず、店舗や商品の魅力を高め、QSCレベルを上げ、お客様満足に繋げていくことが黒字化への道筋と考え、それらの対策を実行すると共に、①各業態の店舗オペレーション見直しによる弛まざる運営コストの低減、②食材や商品構成の見直しによる原価の改善、③本部管理業務の効率化による人員の削減、④経費削減とりわけ店舗賃借料削減プロジェクトによる集中的な取組み、等に注力してまいりました。

しかしながら、雇用・所得環境の厳しさに加え国内株価の低迷を反映して、消費者の節約志向は依然として強く、各業態毎に対策を実施いたしましたが、来店客数及びお客様単価の計画を達成するに至りませんでした。

その結果、売上高の減少を主な要因として前回の業績予想を下回りました。四半期純損失は、第1四半期に計上した資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う影響額288百万円等に加え、当第2四半期において経営構造改革関連損失689百万円等の特別損失1,046百万円を計上いたしましたので1,661百万円となりました。経営構造改革関連損失の内容は店舗閉鎖損失引当金繰入額75百万円、減損損失428百万円、早期退職費用引当金繰入額180百万円、賃貸借契約解約損5百万円であります。

4. 通期業績予想の修正の理由

第2四半期累計期間の業績予想に差異が生じたこと、また平成22年10月4日公表の経営構造改革計画の実行により、15店の店舗閉鎖による売上高の減少・希望退職者募集による人件費の圧縮等を織り込み、前回予想を修正いたします。

なお、年末・年始の宴会需要を下期最大のビジネスチャンスと捉え、その獲得に「源べい」「土筆んぼう」「ボンズ」「なじみ野」業態は、全社を挙げて取組み、計画の達成に努めてまいります。

なお、希望退職者募集の結果につきましては、確定次第お知らせいたします。

上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上